

第4日

平成27年9月4日（金）

午前10時39分再開

○議長（浅尾静二君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、6番半田雄三議員の質問を許可します。6番半田雄三議員。

（6番半田雄三君登壇）

○6番（半田雄三君） 皆さん、おはようございます。一般質問の許可を得ました6番議員の半田でございます。

一般質問を行います前に、先日の台風15号によりまして被災された市民の皆様、とりわけ農業者の方々に対しまして心からお見舞い申し上げますとともに、早急なる回復を心から願うところであります。

さて、毎年異常気象、異常気象と言われておりまして、振り返りますとことしの夏も本当に大変変わった夏だったなという感じがいたしております。大変長い梅雨になりまして、いつまでたっても梅雨が明けない。明けたかと思いきや、うだるような暑さの猛暑が続きました。季節外れの台風が来るという形で本当に異常だったなと思っておりますけれども。

こんな中、朝倉市、もしくは朝倉、それから朝倉に関連する言葉というのがいろんなメディアを通してだったり、いろんところで露出してるなというのを感じました。例えば、8月24日の西日本新聞の朝刊、覚えてらっしゃいますでしょうか。タデ、紅タデが高血圧とか動脈硬化に効果があると、効力がありますという記事だったと思いますが、その中で70%が福岡県で生産しておりますということが書かれておりました。ところが、その70%は全部朝倉市の生産でありまして、すなわち全国の70%のシェアを朝倉市がとっていることとなります、こういう事実もありますし。

また春先以降、道の駅の原鶴、バサロが九州・山口の人気ランキングで7位にランキングされました。

そして「東洋経済オンライン」の都市の住みよさランキングにおきましては朝倉市が11位にランクされております。こういういろいろないいこともありました。

その上、きわめつけは朝倉高校野球部が快進撃を続けまして県のベスト8まで行きました。私、縁があって、5年前からずっと時間があいたときには野球の試合の応援に行っております。当日の試合もバックネット裏で見えておりましたけれども、本当に目の前に甲子園が見えたような気がしました、非常に明るいニュースが大変ある中で。

それともう1つ、特に4年半ぐらい議員を続けておりまして思いますのは、市庁舎に入ってくる時、本当に気持ちいいです。4年前でしたか、ワンストップサービスの形態にしまして、ほかの来庁される市民の皆様からもよく聞く話なんですけれども、入ってきた途端に右側からおはようございますという声がかかる。そして、どうしようかなと迷って

おりましたら、前のほうから何の御用でしょうかという声がかかってくると。本当に朝倉市の市役所に行く気持ちよかったという声をたくさん聞いております。もちろん担当部署の頑張りもあったんだろうと思いますし、当時からずっと気にしながら動きを見ておりましたけれども、大変ぎこちなかった動きが最近本当にスムーズに気持ちよい対応されてるなというふうに思います。

そんないい話がいっぱいある中で、昨年、当朝倉市が消滅可能性都市に掲載されました。そのことを機に消滅可能性都市、このまんまいったら消滅しますよという都市に掲載されたにもかかわらず、まるで朝倉市が消滅するのではなかろうかという考えばかりが先行しまして、負といいましようか、マイナスの考え方が先行してしまって、どっちかという悲観論になってるのではなかろうかなという気がいたします。悲観論になってしまいますと、いろんな物事の発想がマイナスに動いてしまいまして、市の発展にとっては全然プラスにはなっていないというふうに感じております。

そこで、今回の一般質問につきましては、今、地方創生のために市で新たに取組んだり、もしくは継続して取組んだりしてることを重点的に質問していこうと思いますのでよろしくお願いいたします。

以下、質問席より続行いたします。

(6番半田雄三君降壇)

○議長(浅尾静二君) 6番半田雄三議員。

○6番(半田雄三君) 先ほども申し上げましたとおり、地方分権が進む中、地方減少という重大な問題を抱えております。この問題の解決や影響を少しでも和らげるために、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業が行われております。これは全国で行われていることではありますが、いろんところで違うことが行われております。当朝倉市でもかなりの量の事業が行われておりますが、その中から幾つか絞って質問させていただきます。

まず、その政策の策定に当たって、昨年の10月、国、内閣官房から1つの原則を示されて、それを徹底してくださいというのが発表されております。ちょっと読ませていただきます。1、自主性、自立を支援する施策であること、2、将来性、夢を持つ前向きな施策であること、3、地域性、地域の事情等を踏まえた施策であること、4、直接性、直接の支援効果のある施策であること、5、結果重視、結果を追求する施策であることという5項目です。この5つの観点から質問いたしますので、この視点でお答えいただきたいと思っております。

まず、定住促進事業、トライアルワーキングステイ事業について、簡単な事業内容と目指すべき目標、さらに現状の推移をお答えいただきたいと思っております。

○議長(浅尾静二君) 総合政策課長。

○総合政策課長(鶴田 浩君) トライアルワーキングステイ事業、これは正式にはふくおかトライアルワーキングステイ事業と申します。

目的、概要でございます。首都圏を初めとします県外からの移住希望者に対しまして、県内で働きながら一定期間居住し、朝倉市の魅力、住みよさを体験してもらいながら朝倉市の魅力をブログ等で情報を発信してもらおうということでございます。こういうことで全国から多くの定住者を呼び込むこと、あるいは参加者が移住することに結びつけるために実施していると、そういうものでございます。

福岡県を事務局、これは広域地域振興課でございますが、そこを事務局といたしまして、朝倉市のほか、宗像市、八女市、筑後市、田川市、豊前市、鞍手町、みやこ町の8つの市町で取り組んでいるものでございます。

この取り組みの現状でございますが、ことしの2月に県が説明会を実施したものでございますが、それを受けまして私どもといたしましてはコミュニティ、これは事務局長会、会長会に対しまして事業の紹介、こういうものがありますよと、体験移住先があればお知らせくださいというような説明をいたしました。

その後、体験する職場、現在、杷木林田の林農園さんをお願いしてるところですが、その職場や住まい、これは杷木林田の時川さん宅でございますが、そこを調整しまして、7月にインターネットを介しまして10月から12月、こういう取り組みをしますというような募集を行いました。募集の結果、2組の方に参加していただくということになっております。

今後でございますが、約1カ月半ずつ2回体験していただくわけですが、仕事や住まいの体験だけではなく、地域行事、お祭りなどにも参加していただきますようコミュニティと連絡をとりながら朝倉市を満喫していただきたいというふうに考えております。現状はこういうところです。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） 目標値については何組とか、そういう具体的な目標はなかったんでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（鶴田 浩君） これが県の要領でございまして、1つの自治体が2組というようなことになっておりますので、この事業については2組ということでございますが、これの事業をもとにさまざまな考え方が多くに広まっていったらいいというふうに思っておりますので、これはその起点といいますか、きっかけとなるような事業というふうに思っております。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） わかりました。まだちょうど始まってまだ半年たつたないかのころですんで、最後まできちり成果が上がるよう努力していただきたいというふうに思います。

次に、定住促進事業の中でもあさ暮らし住宅リフォーム事業というのが挙げられておりました。その部分について、同じように簡単に事業内容と目指すべき具体的な目標、そして現状の推移をお答えいただきたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 住宅リフォーム事業について御説明申し上げます。

目標、目的、市民が快適に住み続けられるということで住環境の向上を目的としております。

効果といたしましては、地域経済の活性化、それから先ほど述べられましたように定住促進を目指しております。

特徴といたしましては、親と子が、そして孫と一緒に暮らせる3世代同居、それを推進しております。

本事業、3年間の期間を設けて実施をしております、本年度が初年度となります。6月より募集いたしまして、現在、執行額として431万円の執行を終わっております。件数といたしましては31件。市内の居住者の申請が24件で、親子3世代の同居というものが5件ございました。転入を伴う申請が2件、空き家をリフォームして住むというものでございますが、2件ございます。

経済効果として、この補助金に対しまして工事額で換算いたしますと5,431万円の工事が行われております。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） ありがとうございます。順調に成果が出てるようですね、引き続きまだ3月いっぱいまでよろしく頑張っていたきたいと思います。

次に、プレミアムつき商品券発行補助事業につきまして、同じように質問いたします。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） プレミアムつき商品券の発行事業ですが、今回、地方創生の交付金を活用いたしまして、地域内の消費の拡大、消費喚起という形の中で全国でも97%の自治体に取り組んでるということはもう実例でございます。

朝倉市におきましては、もともと定額給付金が始まった平成21年から単独、もしくは後々、県の補助金等をいただきながらこの分についてはやっておった現状がございます。

ことしはプレミアム率を20%ということで、7月の10日から半年間、12月の31日までの半年間、取扱店についても昨年までは約340ほどの店舗でございました。ことしについては400店舗ほどの取り扱いまで拡大をしております。

一番販売について問題になったのが、全国いろんなさきに販売した事例が、余りにもプレミアム率が高いということで一気に完売する、あるいは本当に買いたい人が買えなかった、そういうのがさきに情報が入りまして、たまたまことしの場合については金曜日がス

タートでございました、販売の。金、土、日という形の中で3億円、総額で3億6,000万円ということがございますので、1億円ずつの販売をするということで、特に甘木エリア、もしくは、いろんなところでは行列ができたということで承っておりますが、そこあたりも考慮しながら、事務局であります商工会議所、商工会と調整をしながら、地域の消費喚起のほうにするように現在、今度は換金のほうについては、8月末で1億6,500万円ほどの換金が既にあっておりますと。全体の46%が換金をされたということで、時系列に見ますとお盆の前の換金が多かったということで承っております。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） この件につきましては、私もちょっと気になりながら見ておりました。発売開始時間にはほぼ売り切れに近い状態になるような人気であったように感じております。ただ、購買につきましては今からですんで、取り組み店に対しての投げかけだったりを続けていっていただきたいというふうに思います。

引き続きまして、ふるさと宿泊助成事業につきまして説明をお願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） ふるさと宿泊助成事業ということでございます。朝倉市には福岡県でも有数の宿泊施設を持ってる温泉地、あるいは秋月、三奈木、いろんなところの宿泊施設を持っております。他自治体ではなかなかこの宿泊事業については、今回の創生事業の中のメニューには入ってきませんが、宿泊施設を持ってる以上、朝倉市でも取り組むということで、朝倉泊覧会、泊は泊まるという字を使いまして、泊覧会という名前を打って、6月の1日から予約をしまして、実際は8月の2日から10月の30日までの3カ月間の宿泊をされる方につきまして、金額6,000円未満については1,000円、6,000円以上1万円未満につきましては2,000円、それから1万円以上につきましては3,000円の宿泊の補填をするように、今、スタートしております。

落としががないために、市内の27の旅館、ホテル、あるいは宿泊施設のところに説明をいたしまして、最終的には17施設がこれに加盟をしております。

8月末の段階で約4,000件の申し込みがっております。補助金ベースで1,120万円の補助金ベースとなっております。

いろいろ短期間の中で制度設計をするに当たって一番問題になったのが、土日、土曜日、休日前の宿泊をどうするのかと、ここあたりについては最終的に省いて、平日の部分にこれにあてがうということで、8月の2日から10月の30日までの71日間が対象の期間ということで動いております。特に夏休み期間についての伸びは大きかったんですが、さらに9月に入っても予約の分については順調にのんできているところでございます。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） ありがとうございます。

続けて、もう1つ、2つ、行かせていただきたいと思います。ふるさと物産販売促進事業についてをお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 続きまして、ふるさと物産販売促進事業でございます。先ほどの分が泊まり、宿泊ということでございました。今回はこれは今度は物産、朝倉市の物産ということで、名前を得するという字を入れまして朝倉得覧会というところで、8月の1日よりネットを介して40%の割引きをしましょうということで現在動いております。

もともとのホームページを朝倉市独自で作りまして、ただ、このホームページ、日本通販ショップといいますが、この分だけでは当然見る方については少のうございますので、楽天、アマゾン、ヤフーの店舗でも購入できるように、今、整備をしているところでございます。

8月末の段階で40店舗、40事業者で、品物につきましては166品目、果物、野菜が主を占めておりますが、あと調味料、米、それから9月末以降になりますと柿についても既にラインアップはそろえております。

そういう流れの中で、特に8月の14日の西日本新聞で、これが都市圏版とは言いましたが、実は福岡全域のほうに載った関係で一気にホームページへのアクセスがふえまして、8月末の現在で6,600のアクセスがっております。ところが販売件数については今のところ400を超した部分でございます。販売額につきましては今現在90万円から100万円というところで推移をしております。さらに先ほど言いますように、これから目玉であります富有柿等が出回る段階になってきます。さらに追い込みをかけながら、このネット販売、朝倉得覧会をPR継続していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） これはインターネットのほう、ホームページを見ますと出てきますよね。興味を持ちながら見させていただいたところですけども、現状の動きがどういうふうなのかなというのは気になっておりました。皆さんもお気づきだと思いますけれども、ほとんどがこれ商工観光課に来てるんですよね。その中でかなり同じ人員で奮闘されてるんだらうなというふうに思いながら見ておりましたんで、結果も出てきておるようですし、多分、民間さんと一緒にやりながらということですね。ということですので、しっかりまた頑張りたいというふうに思います。

引き続きまして、観光振興事業、インバウンド受け入れ環境整備等という部分についてお尋ねいたしますが、その中でも外国語によるリーフレット等よりも無線LANの福岡県で6市町村しか多分入れてないですよ、公共無線LANというのは、それについての取

り組みをお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 観光振興事業の中でさまざまなインバウンド対策ということで今回の交付金を活用しながら、今、制度設計並びに進捗をしておるわけですが、公衆無線LANの部分に特化したところでございます。

実は3月の予算審査、そのときにも朝倉市内には光ファイバーの部分も網羅されております。今回、インバウンド関係について、外国人の方はまず入国をしますとWi-Fiが使える環境を好んで、そしてそのアプリをダウンロードしながらいろんな観光に回るといってお話がありました。今現在、制度設計してますのは、朝倉市内の観光、宿泊施設等に無料Wi-Fiのルーターを設置する方々に対して一部の補助をするように最終的な制度設計をしておるところでございます。大きい意味で、この無線LANの環境というのは日進月歩しております、今、九州全体を取り巻くフリーWi-Fiとか、あるいは日本全体を取り巻くJapan Connected-free Wi-Fiとか、要はSSIDを入れなくても1カ所で登録をしまえば全てWi-Fi機能が使えるとか、いろんな技術革新が始まっております。ですから、近隣の例も参考にしながら、まずは朝倉市としては観光施設、宿泊施設等に対するところのルーター等の一部補助ということで最終段階に来てるといことで、今、動いております。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） ありがとうございます。これも朝倉が先ほど言いましたとおり、いろんなところで露出してまいりますと、外国人含めてかなりふえてくるのではなかろうかな、大事な要素ではないかなと思いますんで、早急なる対応をするべきだろうなというふうに思います。せっかくのチャンスですんで、しっかり今の時機を利用しまして徹底していただきたいというふうに思います。

実質、本日、一般質問通告書に書いてます内容はほとんど、今言いました事業もそうですけれども、市にとってプラスに作用する、人口減少を食い止めたり、地方創生の源になるようなことに対しての質問でありますんで、続けて、ふるさと応援寄附金についてという部分のほうの質問をさせていただきたいと思います。

先月の全協におきまして、6月、7月の実績は報告がありました。大体の流れはわかりますけれども、8月が終わりまして、8月の実績がどうだったかというのをまずお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（鶴田 浩君） 8月末のふるさと応援寄附金の状況です。6、7、8月トータルでございますが、件数で1,933件、それから入金額が2,242万2,800円、そういう金額、件数でございます。そういう状況です。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） まず、この間の全協で説明がなかった部分なんですけれども、出店されてる企業数、事業者数というのは一体幾つになってるんでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（鶴田 浩君） ここのお礼の品を提供していただきます企業数については、今、数値として把握しておりませんので、それを拾わなければ出てこないという状況でございます。申しわけございません。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） 同じく、これが目標値、300万円でスタートしましたね。その中の予算が150万円ついて、300万円でスタートいたしましたけれども、既にもう2,000万円超えてるということで、これの目標値が達成したことに対して、情報修正された目標というのはありますでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（鶴田 浩君） 6月からお礼の品を送付し始めたということですが、具体的な数値目標というものは定めておりません。できる限り、多くの寄附をいただくということを目指して取り組んでおるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） そうですね、ここまでという限界はつくらんほうがいいなというふうに思いますし、なるべく多くの方々に朝倉の魅力を知っていただける方策をとるべきだろうと思います。

そんな中で本来、市の運用というのは予算があって、目標値があって、予算内で仕事、もしくは事業をこなしていくと、その中で進めていくという展開になろうかと思っておりますけれども、この場合がもう既に予算額の150万円を楽に超えとるような計算になるわけです。本来でしたら補正なり、専決報告なり、そういう形ですべきなんだろうけれども、これにつきましては新たに外から入ってくる、金額が入ってきて、そのうちの50%ぐらいを経費として見られてるといふような流れの中で運用されてるんだらうなというふうに思っておりますけれども、私自身はそれでいいと思います。ところが、ルールとすればそうではないはずなんで、そういうことでやりますと、入ってくる中から50%の経費を使ってやりますということをどっかで承認する場が必要なんじゃないのかなという気がいたしますがいかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 総合政策課長。

○総合政策課長（鶴田 浩君） 寄附をいただくということ、それに伴いましてお礼の品をお送りする、それに伴う経費がかかってくるということで、これにつきましては歳出ということになってまいります。この予算につきましては、総合政策課にあります現行予算により対応することといたしております。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） 対応の仕方といいますか、一定のルールだけきちっとしていただければ、それは一番やりやすいやり方で問題はないと私は感じております。だけれども、どっかの段階でその報告だけはされたほうがいいのではないのかなという気がいたしまして、今回質問させていただきました。

もう1つ、ちょっと気になることがあります。副市長にお尋ねいたしますけれども、今、職員、本当に頑張ってると思いますが、職員の人事評価をするに当たって、朝倉市に住んでいるということが加点ポイントになり得ますか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） なかなか悩ましいところであります。職員それぞれ、できれば市内に住んでいただくというのが望ましい形かと思えますけれども、それぞれやはり家庭の事情等々あるかと思えますので、なかなかそれを強制ということは難しいかと思えますので、そういった差を設けるということは適切ではないというふうに感じております。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） そうだろうと思いました。実はこのふるさと応援寄附金、いわゆるふるさと納税制度というのは市外の方しかできませんよね、市内の方は。朝倉市の職員の中で市外からお勤めの中で、この制度を利用して朝倉市に応援寄附金をされた方というのがいらっしゃるのでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 現在数名おります。実はこの件につきましては、ふるさと納税がスタートしました時点で職員には周知をしまして、さらに、また今回、お礼の品ということで制度を始めました。このときに改めて政調会議の場を通じて市外に住んでいる職員、これに対しても協力を依頼したところでございます。今、数名おります。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） 大変安心いたしました。市外で朝倉市に対して貢献できないと思っただけの方が貢献できる制度だと思いますし、制度自体は非常に、これ粗いんじゃないかなという部分もありますけれども、大都市と地方都市と比べますと、間違いなく地方都市に有利な制度ですんで、もうできる限り利用していただけたらいいんじゃないかなという気がいたします。

続きまして、最後の縁結び応援事業についてお尋ねいたします。

ことしの3月の予算委員会におきまして、昨年まで150万円の予算であった部分が、今回100万円の予算で計上されておりました。そんな中で、ことしのこの動きがどうなっているのかを報告をお願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（宮地ミドリ君） 縁結び応援事業について御質問でございますが、議員

おっしゃいますように、本年度の予算が100万円計上させていただいて議決いただいております。これについて、その金額にした考え方としては、前年度までの実績等を勘案して予算措置をしてきたところでございます。

以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） 昨年から減るんじゃないかなということだったようなことはちらっと聞いてはありましたけれども、今、いろんな部署で人口を減らさないためには、もしくは地域を発展させていく、創生するためにはということ考えてる中の、まさにこれも書いておりませんが、最初の地域活性化事業というか、それに入ってると思います。これにつきまして、たしか今回、去年よりもずっと多くて、5件かな、5団体ぐらいから申し込みがあつてるというふうに聞きましたけれども、その辺のところをお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（宮地ミドリ君） 本年度の状況について御説明をさせていただきます。本年度5月に市報等を通じて団体の募集をさせていただきました。議員おっしゃいますように5つの団体から応募がございました。事業実施については9月から11月にかけて、それぞれの団体で事業を実施されるようになっております。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） この事業は本当に朝倉市の弱点といいましょうか、非常に独身のまんま結婚しないで過ごす方、もしくは相手が、結婚したくてもできない方という部分を補完するといいましょうか、そういう部分で非常に大事な策だと思うんです。

実は私もある団体に働きかけて、これをやってくれという話も申し上げました。その団体も申し込みをしておりますけれども、昨年までですと3団体がたしかされてました。全、その事業に係る事業費の3分の2を最高50万円にて負担しますという内容だったと思うんですが、それが5団体になったことでどんな状況になってるかをお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（宮地ミドリ君） 昨年度まで事業の実施された団体についてですが、数については年度によって違いますが1から2団体、補助を受けて事業を実施していただいたという経過がございます。本年度、おっしゃるように5団体から応募がございまして、補助の要望額の合計が170万円ほどになりました。予算が御承知のように100万円でございますので、予算の範囲内で、それぞれの各団体と協議をさせていただいた上、補助金額を調整させていただいたところでございます。

以上です。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） その各種団体が5団体が応募されて、その各団体というのは、市

に対して少しでも貢献したいという意味合いで、これやってるわけですね。ある程度の当初の予定であっても、全事業の3分の1ぐらいは自分たちで負担してもいいからやろうという思いでやってる事業であるはず。それが5団体になったがために、例えば当初50万円来るはずで計画をしてたのが20万円しか来なかったとか、そういう事案が発生してると思うんです、これは。この考え方につきましては、私はこの事業は、例えば補正を起こしても全団体にするべきじゃなかったのかなという気がいたしております。この問題というのが朝倉市にとって非常に大事な問題ですんで、その上、各団体がいわゆる俗っぽく言いますと自腹を切っても何とか貢献したいという方向に進んでる内容ですから、そういう方向に進めるべきじゃなかったのかなという気がいたしますけれども、副市長はいかがでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） おっしゃいますように、各団体、そういった縁結び、あるいは婚活ということに真剣に考えていただいて、取り組んでいただいているということは大変貴重な動きだというふうに捉えております。

ただ、先ほど部長から申し上げましたように、ここ数年の応募が少なかったために、今回予算を減額したという経緯がございます。また、事業の性格上、実施すれば必ず実績が出るというもので必ずしもございません。そういったこともありまして、今年度はこの予算の範囲内でということを進めてまいりたいという考えでございます。

実は今回、5団体実施していただきますけれども、大体実施時期が11月までには全て終わります。このことから、その完了する見込みを捉えまして本年度の実績、成果、あるいは今後の団体の意向等々を十分踏まえまして、来年度の予算に反映させていきたいという考えを持っております。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員。

○6番（半田雄三君） そうですね、なるべくこの件につきましては力を入れるべきだろうというふうに思います。そして、なおかつ市でやるのではなくて、民間の団体に対して、いわゆる共助とまでは言わないにしても、一緒にやりましょうという体制をとってますんで、これを当初の予定から減らすというのは、多分、来年度、団体数が大丈夫かなという心配も私、しておりますんで、ちゃんとしっかり話をされて、将来に向けてぜひお願いしますという部分、続けていつていただきたいという部分を持っていただけたらなというふうに思います。

以上、ほぼ今回の一般質問の内容、説明いたしましたけれども、冒頭に申し上げましたとおり、決して悲観することから始まらずに、朝倉にはいっぱいいい素材が転がってますし、いい材料もありますんで、それを利用しながら、特に職員の皆さん、しっかり頑張ってください、朝倉をよりよくしていただけたらなというふうに思っております。

以上をもちまして私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（浅尾静二君） 6番半田雄三議員の質問は終わりました。
午後1時まで休憩いたします。